安全 安心 JAL 不当解雇撤回

JAL不当解雇撤回ニュース

No604 号 2020.09.04
発行:JAL 解雇撤回国民共闘事務局
連絡先:航空労組連絡会事務局
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4
フェニックスビル内
TEL:03-3742-3251 FAX:03-5737-7819
http://www.jalkaikotekkai.com

JAL 争議支援かながわ連絡会　結成 1 周年！

8・22フォーラム

JAL不当解雇争議の早期解決に向けて

■オープニングは、神奈川での 10 年間の闘いを紹介したスライドショーと、**神奈川のうたごえのみなさん**・合唱団　フェニックスによる合同演奏で開会しました。

■冒頭、かながわ連絡会共同代表の**岡田尚弁護士**による「解決しない争議はない。私たちの闘いの勝利は何か。次の世代にどういう武器を持たせるのか。大いに議論して頂きたい。団結なくして解決なし。皆で頑張ろう」との力強い開会あいさつがありました。

■毎日新聞編集委員の**東海林智氏**（元 JAL 国民支援共闘共同代表）が、「新型コロナ禍の新たな社会情勢、JAL 争議の今日的意義」と題し特別講演。また、**今村幸次郎弁護士**（JAL 争議弁護団）により、「JAL 争議の到達点と今後の展望」について特別報告がありました。

■パネル討議では、パネリスト 5 名が争議への思いと勝利への展望を述べました。また、会場からも現状の見方や、解決に向けた率直な意見が出され、組合からのメッセージも代読されました。

■神奈川地域労働運動交流の**鈴木順教氏**が読み上げるフォーラム・アピールが、参加者 118 名の拍手で採択されみんなで勝利を勝ち取る決意を新たにしました。

■閉会のあいさつ挨拶で、共同代表の**浅井優子氏**は、「コロナ禍で闘いを勝ち取ることの重大性を学んだ。早期解決するための課題も見えた。労働者の団結と信頼と労働者魂を発揮して共に頑張ろう」と締めくくりました。

JAL 争議の解決が、コロナ禍での労働者を励ます　　東海林智氏

働き方改革で進められた『柔軟な雇用』の矛盾が、コロナ渦で一挙に噴き出した。労働者として扱われない労働者が蔓延し、簡単に解雇されていく状況の中で、10 年間働く者の尊厳を求めて闘っている JAL 争議の解決は、多くの労働者・労働組合を励ます。また、解雇は絶対許さないことを経営者に伝えることにもなり、価値あるものとなる。

JAL は国際労働基準に基づく解決が求められる　今村弁護士

JAL は、ILO と東京 2020 組織委員会とのパートナシップ協定締結、そして不当労働行為に基づく責任からも、国際労働基準（優先的雇用）に沿った解決が図られなければならない。経済的苦境から立ち直った企業の責務であり、労働者の権利である。10 年間の信念・団結・広範な支援の力を更に集中させて闘いましょう。

パネル討議

パネリスト（写真左から）

- 司会米山さん（かながわ連絡会）
- 水谷　かながわ連絡会事務局
- 内田　客乗原告団長
- 山口　乗員原告団長
- 今村　弁護士
- 柚木　支える会事務局長

水谷さん：神奈川では、争議 10 年の到達点、前進面、不足点について真剣に議論し、こうあるべきではないかとまとめた。ILO も言っている労働委員会の活用や、最高裁の素晴らしい判決を利用できる。政治的には超党派でこの闘いを応援できる状況もある。さらに大きな運動も必要。こう言う闘いで意義ある解決をしたことを若い人たちにつなげたい。勝利するために頑張りたい。

内田さん：諦めずに力を寄せ合い手を携え共に歩んで行けば必ず活路は見いだせる事を示したい。組合つぶし、弱体化を狙った解雇を経験した者として、組合の存続のために、客室乗務員の未来も見据えながら、社会問題と結んで取り組んでいきたい。原告たちの厳しい現状から今年中に何とか解決したい。

山口さん：会社が労務方針変更し特別協議を始めたことは運動の成果。しかし 9 ヵ月間の運動自粛でゼロ回答。会社は運動の消滅を狙っていたが、運動の再開が狙いを打ち砕いた。会社は争議団・組合・支援者を切り離そうとしている。世論を拡げ、運動を強めることに確信を持って闘いたい。

今村さん：会社更生手続きにおける解雇についても整理解雇法理が適用されるが、たとえ解雇有効とされても、業績回復し新規採用する場合、職場復帰を求める被解雇者は優先的に採用されるべき。ILO166 勧告を日本は批准していない。争議が解決することで、法律や制度として後世に残されるならば、二度とこのようなことは起きなくなり、歴史的な闘争のレガシーになる。

柚木さん：解決したいと言ってきた会社が、解決案を出してこなかった。今年の株主総会でも社長は同じ発言。被解雇者に破綻の責任は一つもない。再雇用でも職場に戻さないのは、強い不当労働行為意思を示している。この姿勢をどう打ち破っていくのか。10 年の苦労にどう報いるのか。運動と交渉でキチンと詰めていく必要がある。闘って勝ち取るしかない。

～会場発言から～

- ●会社は解決を装いながら、争議団・労組・支援共闘の闘いに楔を打ち込み、分断を狙っている。膠着した状況をどう打開するのか。具体的な道筋をつけるための深い議論をし、団結を固め会社を追い込む必要がある。労働組合潰しの解雇の本質を打ち出していくべき。
- ●特別協議でなく団交で解決していくしかない。不誠実団交として労働委員会を使う運動ができる。突破口を模索したい。我々は単なる支援なのか、共に闘う戦線を作るのかを問われている。
- ●18 年続くフィリピントヨタの争議を支援している。闘いは何度も山谷がある。共に頑張ろう。
- ●大企業の横暴に対して社会的責任を果たさせる必要がある。雇用問題に社会的関心が高まっている中、JAL の闘いの意義が大きい、JAL 争議の勝利で大企業の横暴を止めることができる。
- ●政治の活用はどうなのか。政治課題として賃金や雇用問題の本格的な議論が必要。憲法 27 条に基づく議論。
- ●国会内で JAL 争議問題の議論と併せて、今日の議論が実行されたら良い。
- ●政治的にも社会的にも敵の嫌がることをやる。敵よりも一日長く闘う。コロナ渦の状況で、何ができるか、どう闘うかを考える必要がある。
- ●相撲で言えば土俵際まで来ている。寄り切りしかない。会社も解決を望んでいるので四つ相撲になっている。後は何を力にするか。政治の利用や世間を騒がすこと。知恵を出し合おう。

一度の休憩時間でしたが、食品は完売しました。

アピール文の採択